



新関良三

新関 良三（にいぜき りょうぞう）

河北町名誉町民 昭和44年5月30日顕彰

明治22年（1889）8月4日、西村山郡谷地村横町（現河北町谷地）に、父平泉長三郎、母たにの4男として誕生しました。

谷地尋常高等小学校から西村山郡立西村山中学校（現寒河江高等学校）に入学しましたが、その後山形中学校（現山形東高等学校）に転校し、東京高等商業学校（現一橋大学）に進みました。

その後、大正元年（1912）、山形市の伯母新関せいの養子となり新関家を継ぎ、第一高等学校文科を経て、同4年に東京帝国大学文科独逸文学科を卒業しました。

卒業後は第四高等学校（金沢）・学習院大学・東京文科大学の教授を歴任し、浦和高等学校校長並びに初代埼玉大学々長、共立女子大学文芸学部長・同文学芸術研究所長などの重責を担いました。

この間、同13年（1924）から3年間は、宮内省在外研究員としてドイツ・オーストリア・スイスに留学して、西洋演劇やドイツ近代文学に関する研究を深めました。その結果、昭和14年（1939）には、ドイツの劇作家シラーとギリシャ悲劇についての論文で文学博士になりました。同18年から15年の歳月を費やしてまとめた『ギリシャ・ローマ演劇史』全7巻は、西欧古代劇の最も優れた研究であり、日本人による外国文学研究の最高峰と称えられました。これらの業績に対し、日本学士院恩賜賞が与えられ、文化功労者の名誉が贈られました。